雑集

文久癸亥 三
鈴木大

共廿八冊

和書門
類 三六〇五一號 二二四函 四架 三八冊

内閣文庫
和書 類 三六〇五一號 三八冊 一五〇函 二三架

閣 24

内閣文庫	
番號	和 36051
冊數	38（19）
函號	150 155

史 五 八

綴じ部（喉部分）の文字など開きが不鮮明な箇所あり

国立公文書館
National Archives of Japan

内24

柳營叢書　癸亥ノ四

江戸ニ於テ採録　多々之

亥二月　大樹公御上洛御供列

御先手　一番組　書院

御書院番頭二組　御書院番組頭　若年寄

講武所奉行　御徒頭　御持筒頭

講武所　御目付　御持小筒組

同　同　同

御小姓組番頭二組

同

同年三月

御使番　御目付　徒目付　御徒目附

御中間目附　御小人目附

同　目付方　御側衆

小普請支配　御徒頭　御書院番

同　御徒目付　御目付　御小人目付　御中間目付

（諸武器方）御鉄砲七拾挺　諸武器奉行手附　同
同　諸武器同心手附　同
（同心）御挾箱　御鎗三拾本　千人頭手附　御弓　御替馬三疋　御挾箱四ツ　十二ケ
同
御具足　御徒目付　御台傘　御立傘　御床机　御曲彔
御徒士方一組　同断　（諸御役方）二十五人　同　二十五人　（釼術方）二十五人　同　二十五人
御徒士方一組　同断
御徒士方一組　同断　同　二十五人　同　二十五人　同　二十五人　同　二十五人

御長刀　同　御鷹用筒
御
（御供）御小納戸　御小姓　両番　御目付支配　同　御手筒
御小納戸
御徒目付八人　御徒目付
御小人目付八人　御召替　御野袴
御小人頭　御持鎗　御薬箱　御日覆　御雨具　御沓　御挾箱　御茶弁当　御水筒　御丸…　御鉄炮　御床机　御草履
御小人目付　御弓　御供以上　御手弓方
御手弓目付　御手弓頭　御馬印　同　御旗
御具足　御小姓組一組　当番手持　（三十挺）御鉄砲三十六挺　同　同三十六挺
御太鼓　御先手　一組　同　手持　同　同三十六挺

御徒頭 一騎 御小人目付 並御手足 御例之 御例之 御例之
御目付 一騎 御徒目付
大目付 一騎 御中間目付

奥外科
奥医師 御小納戸 山城守 持四挺 若年寄衆 御徒押 小人押 御中間押

同勢 御老中方 御跡押 諸家

右文久三癸亥年春二月十三日
征夷大将軍家茂公御上洛之節ニ供揃別

薩州ゟ届書

英吉利ミニストル[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

去亥年七月中別紙之通被仰渡候趣茂有之候

届申上候

三月六日

松平修理大夫内
新納□□

深川口番所ニ而去ル頃無明之士体之者壱人清府入候ニ付立
番之足軽共何者と相尋候処酒狂之様子ニ而其儘無体之應対
致候間兎角不審之者ニ付留置候処猶又狂気募り候ニ付
尚番所へ召連候処抜刀致し中々手ニ合不申一同取扱候処
足軽之者を致打擲候ニ付打倒候処不得止打倒し起直
り刀を振廻候得共番之足軽相手ニ成之不致之処番人
番士之内相役之者相見候ニ付二三人引揚候
人々清番所勝手口引入申諭候得共不入用之刀を振廻乱暴ニ付
詰合之者共押留捕縄を掛入念番人附置候処一旦
相応之様子ニ相見候得共夜中番人目を忍候間
其内何と申者ニ候哉相尋候得共一向不答猶又相尋候処
相名乗候様致候以上

稲垣若狭守様御家来
武田正助

三月廿九日

右四月朔日町年寄樽屋井上信濃守殿御役宅ニ而御吟味
有之稲垣若狭守家来十四人御呼出若狭守家来二人ニ而
中書之進大膳米次郎御呼出

文三月

[illegible]町[illegible]町同
三右衛門店
[illegible]
文介
[illegible]
[illegible]者[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
申七
[illegible]

之様成振舞致七條高倉辺ニ四人之首を晒置候平野主殿
之者共業跡御座候ニ付所持之品同心之者ニ因是ゟ
召遣ひ候様致シ取計候ニ付主君之悩を被為掛奉り不忠之大悪
ニ付斬戮可致者也
右之者斬戮可致之處遊者ニ付因之斬戮致し候
因而高瀬四月朔日明ケ方投書
高瀬川内之遊旅之板塀ニ張紙之者共町方同人也
押形之者共ニ而候ハヽ路傍之打捨可申者也

癸亥四月

三月廿九日夜三条橋張札

口上之覚

此者共依姦佞徒之人ニ而此度ニ至り猶井伊掃部頭
之意を受継候者也右之者ニ付採用致し不加
誅戮候ハヽ天下之義兵起り孔子之道を中立ニ而輔翼
之條法可有之候事
思召ニ而右之者明ニ付暫時猶予候
弥　右條之法徒断之以而右様之輩ハ誅
伝士光照致し好吏外夷を一時ニ誅戮致し候此趣
国家之為ニ候以上

亥三月　決死之者也

右之者共諸方而出張致し候総所内ニ而札等ハ張置申候

此旨為心得向々江可被達候

三月廿九日

亥
四月朔日

大目付
御目付　江

松平春嶽殿政事総裁職御免之儀被相願候得共
容易ニ難被及御沙汰候処、御聞届も無之内帰国被致候段
不届之至ニ付、逼塞被仰付候
御沙汰ニ付、如何ニも不都合之事ニ候
厳重之御沙汰以後政事総裁職江　被仰付既ニ御免被遊候道
政事御委任之上政事総裁職重キ御役柄ニ対
朝廷別而御手当ニ付急度被仰付見越之
御役御免之上御構之御沙汰政事総裁職之

然ル処遠慮ニ候得ハ
承り候ニ付京都江　御所右向ニ而御通
ハ

四月

信州大変之儀申来り候書付

豊前守

此度市中動揺致し兎角難儀ハ此節致候
難計ニ付此節為御用向御座候ニ付右御用
御役所江御下知被成候中ニ而も急速
ニ被仰付候候難有存候而も申上候通
訳合之義ニ付候御沙汰之儀ニ付右書付申上候
ニ相成候様御取計之儀ニ而御座候得共此節御用途
相替之候ニ付候ニ而も候ニ付右御書付
此段御承知候様御沙汰中之事御座候を以
御了承可被下候様御沙汰候趣（立案）御達之候

節之御条ニ御国益ニ相成候ハヽ御為ニ相
成候ニ付御手段も被仰付候様ニ奉存候
申候得ハ其ニ只今一日も御急キ 御為筋ニ
奉存候然ルニ御手段ニ華夷御往来ニ
仕合ニ御座候得とも難申諸侯方是迄ニ御行 当時
兵端御開キニ相成候ハヽ宸翰 御勅を以御拒絶
以テ相成 御依頼御座候而 日本
朝廷ヨリ御沙汰を以テ 夷人共を御召上ケ被遊
急ニ御所御構ニ相成
京都ニ而も横浜之義ハ申上候ニ付 御尤
許容ニ相成 然ル処海岸数千里ニ而
手当 [illegible]

手厚ク被成候事ニ御座候 急務ニ相成候
ニ付御手段ニ而事ニ付 難相成候ニ付
廉ニ而御沙汰被成 御取扱 御開キ被為在
相成候而 再応御沙汰御座候得 御為ニ而御座
中ニ而御沙汰御座候 以上

四月

佐[illegible]

一金何萬両也　　何町　誰

右ハ名主年寄共私儀當見聞も下賤之者ニ御座候得共

東照御神君様御代ゟ数百年之間御治世太平御恩澤

此上千秋萬歳偏ニ難有仕合ニ奉存候處今般非常之御

不容易國之御事ニ付各様方御精忠之程感服仕候ニ付何

之御用ニ茂相立度乍不及共御國恩之爲ニ而冥加金御差上相成候

供

供ニ列ニ加り度奉存候處身薄之私儀ニ而者存候得も不相叶

候ニ付少分之金子ヲ以御用向御見合金相成候ハヽ難有存候

之始末ニ付趣

御賞ヲ且非常ニ付出精御用之處是又以来ニ付て銭丈之趣

意を以て偏ニ難有仕合ニ奉存候何卒右様之以御慈悲御取次

之程奉願上候

右之段御聞済被下候ハゝ何分ニも御請仕御次第一同奉献納

仕度上候

年号　月

右　誰印

立合　誰印

一金何百両也

猪股鳩翁様

高橋伊勢守様

中條金之助様

石坂周造様

村上俊五郎様

和田理一郎様

相澤良作様

藤本昇様

御印

一金千両者

坂倉清兵衛

一三千両也
一米廿五俵也
一米八百俵也
一米五百俵也
一金千両也　味噌五百樽
一金三百両也
一金三百両也
一金千両也

伊勢屋四郎兵衛
和泉屋甚右衛門
十一屋吉八
井筒屋八郎右衛門
稲垣市兵衛
本仲町
伊勢屋助之丞
南仲町
堺屋安右衛門
大伝馬町一町目
田端屋治郎右衛門

内
一金五百両也　西ノ私渡
残金五百両也　右ハ所屋敷ニ四月九日迄ニ相済候筈
新場
和泉屋三郎兵衛
一金千両也
西ノ私渡
右三口〆五千三百両也　右書付之浪人ゟ下案前ハ
其後も追て雖畏候ても右之所ゟ箪笥　嫁ニ至迄宅ニ
押右之家内者として其方ニ應誠中風篤なる

四月十日紀州国ニ於テ首晒シ有之高札ニ記ス
文字左之通
此者儀報国ニ志シ名を売テ錦旗中ニ隠シ弥威を
金財を貪り人心を動乱いたし候段不届ニ付梟首令
者也
亥四月

浪人 [illegible]名ハ詐名ナリ
右之者共 内 [illegible] 薩長藩士ト申立
在々富家へ押入 尽忠報国心底を以 [illegible]
一同尊王攘夷ヲ名トシ [illegible] 大攘夷ニ付
尽力報国の為精力を以可尽筈ノ者 法外ノ
所業不少 [illegible] 天下一同 [illegible] 法外ノ所業を
相守り [illegible] 自己ニ [illegible]
猥ニ [illegible] 人心動乱 御取締ニ付
者也
文久三年
亥四月十五日
[illegible]
荻田 [illegible]

中奥番より 坂田市之丞

小十人

[illegible]上ニ而 [illegible]代[illegible] 組頭

村上俊五郎 三十四才

同以 大関[illegible] 支配同

和田理一郎 三十三才

松沢良作 四十才

同以 鵜殿鳩翁家来 中条金之助 一同様

岡田盟 四十二

武田本記 三十九

須永宗司 四十九

小林登之助 三十七

杉[illegible]保 二十七

同以 [illegible]長門守 支配同

同以 松平上総介 支配同

上 日

石坂周造 三十四才

[illegible] 昇 四十才

白井庄兵衛 三十七

金子武男 四十一

浅井六之助 三十五

林 原[illegible] 三十

沢田文之助 二十

上林[illegible]郎 廿四

同以

萩原良蔵 廿五

伊藤亀之丞 廿三

同以 差添之

田中九十九 廿二

太田長右衛門 三十三

中沢良之助 廿七

吉原義之助 廿一

同以

小倉大[illegible] 四十七

和田[illegible]次郎 四十七

同以 差添之

羽原忠作 廿二

小関[illegible]伯 卅一

稲熊力之助 廿四

寺田忠右衛門 三十

於評定所 浅野伊賀守 井上信濃守 池田修理 松浦正之丞

立会 伊賀守 信濃守 申渡

四月十五日

鵜殿鳩翁

松平上総介

中条金之助

右浪士之内人数取調新徴組之世話役 酒井繁之丞

一 浪士組之 浪士取扱并 新徴組浪士取扱之

当分新徴組支配取扱之儀被仰付候

四月十四日御用番

中条金之助

浪士取扱 高橋伊勢守

浪士取扱御用 御勘定奉行御預ケ

浪士之内人数 新徴組之

其後右之浪士 宝蔵院 新徴組 同人申渡し 御目付

酒井深四郎 新徴組 取扱

右同人

差扣 御書付之

松平 某

御付

浪士方掛り

右之通

久保田備中守

山岡鉄太郎

鵜殿鳩翁

中条金之助

松平上総介

一 昨年右京亮人数之内 本所三笠町 小笠原加賀守屋敷

浪人取押之為 其外十人之者 相成候

極内探索方取計 達之 申達候

上下御勘定 差図之 町奉行

掛り候之儀 四月

戸田肥

酒井雅楽頭へ

先達而御内用被仰遣候 依付之其元ニ御用向一段御出精
之段被聞召一段之御事候 依付之別而
度々差出候様成儀も無之 御褒美被下置候 依付之御書付を以
被仰出候間 左之通り御請可被仰上候
御書付之通心得候様 御内證を以可被申聞候

四月十七日

大久保加賀守
土井大炊頭
松平右京亮
戸田山城守

松平飛騨守

松平右近将監 中務大輔

今般御役被仰付候 中務大輔 御役義御免被成
候ニ付 御役所ニ而 右京亮 中務大輔 酒井雅楽
頭 被成候ニ付 御役義相勤候様 大炊頭 大老ニ而
可被相勤候間 此段可被相心得候

大目付へ

今般於御名代以上之面々へ 言上
御沙汰有之候 万延年中 右之通 御目見
今般御名代以上之面々へ 御沙汰之通 可相心得候

萬延年

四月十日

六月廿日

上杉弾正大弼
松平右京亮
右代 松平紀伊守
右年寄 大炊頭

七月ゟ九月迄
黒田中納言
南部美濃守
松平備前守

十月ゟ十二月迄
立花飛騨守
毛利大膳大夫
戸田采女正

四月廿一日 松平安芸守殿御渡御書付写

六月廿八日
阿蘭陀軍艦渡来之上意曲直を正し候儀を
明ニ隣国浦賀之諸制ニ准し候諸制共ハ永年之

之義浦賀之儀ハ不容易儀ニ付此度御備向厳
重之義御座候ハ一同申合
精々成丈ケ行届候様心懸候様可被致候
若し右之儀ニ付而者相心得可申候事

四月

此度右浦賀表江御達之儀ハ浦賀奉行御備
方被仰付候ニ付人数引纏ひ罷越可申旨御達
有之候付其筋へ申達候間可然様心得可申候
ニ付其筋へ相達候ニ付不容易儀ニ付夫々御備向
精々心掛候ハ不容易儀
右之通申達候事 右之通可被相心得候以上

同日之
四月廿六日　同前書取
　　大目付江　御目付江
生麦殺傷一件ニ付横浜港ニ渡来之英国広務より
曲直を正し可申ニ付而ハ若其儀難相整ニ付扶助金ニ而
横浜港へ渡来之諸劉法茂定ニ付而ハ時宜ニより戦争ニ
可及も難計ニ付兼而其用意可有之候事、覚悟可有之
候事ニ候右之趣向々江可被相触候

右四月廿五日　仰出され候
外夷拒絶之期限来ル五月十日与被定候条
益軍制相整醜夷掃攘可有之旨
仰出候事

四月廿七日　於御用部屋大目付御目付
生麦殺傷一件ニ付横浜港ニ渡来之英国広務より
曲直を正し可申ニ付而ハ若其儀難相整ニ付扶助
金ニ而横浜港へ渡来之諸劉法茂定ニ付而ハ時
宜ニ寄戦争ニ可及も難計ニ付兼而其用意可有之
覚悟可有之候事

召連候而第一名代としてはゝ出張致し
吉田屋ニ差出し候
一五月十日公使館ヘ掛合候処拒絶ニ付判事林佐之
右衛門差遣候処、参候ハ速ニ兵端を開くと申聞
ニ付篠原彦之丞差遣候処、参り候而も出張
談判之末向を動談判ニ取掛り候処、中々強情
ニ付猶同様談判致し候へ共、更ニ承引不致候ニ付
五月十一日
再ひ英国并ニ公使へ相掛合候処、再ひ
之通り拒絶、談判ニ付而ハ終ニ切迫ニ付
こと成ハ難計兵端大切之事ニ兵端を開く之勢

之儀ハ差止メ相成候ニ付、依而
委細ニハ不及書取候
取計ひ候様申付
右之趣吉田屋福井へ申達し
五月十二日
右ニ付猶又
此表家用之儀ハ法国軍艦へ大坂役所
以此表之者共法国軍艦内取計ひ候故大数
陸付之町々遣し又…
段々其上着込其外着具之儀
之如く申付候

於て猶取扱候得共右之趣相心得面々可被申聞候事

六月十六日

大目付へ

此節板倉周防守殿を以
此度御用ニ付若年寄並大坂因幡守二条
大坂表ニ罷越候旨被仰付遅延御差免候
於京都御用相済候ハヽ大坂表御用被仰付候間
其段可被申達候

四月廿八日 無之 様ニ而以前より渡来之
異國英仏米和蘭等之国々先年来和親交易
致居候得共此度右御差留相成候役人共
朝廷御許容無之先年以来其段被仰出候
御拒絶
朝廷ニ而和親交易拒絶
被仰出候得共此度役人共罷出
右之通相違無之候得共三港之儀
三港之儀者猶取極候事相違無之候ハヽ
一橋中納言殿
尚又此節第一横濱港中納言殿和

叢ミ用捨し候半ミ之長崎ニ而も候ミ荒橋甚
大砲ニ仕懸け候半ミ　此段唐船大砲を取急ニ
上京陸窺大坂を攻め候半ミ長崎よりも白ミ可被候ニ
者有之間敷
取し合也可相済也中納言殿宇戸候

今般攘夷期限尚又来る十一日与　御出し相成
ニ相成候ニ付　兵を動かし候ハヽ処々江英仏和蘭亜国之貿
易を仕居候所許容無之事ニ候得者長崎陽も同時ニ
也　拒絶日数三十日を限り外夷一人も無之様
相成候ニ付　御出し之趣も得と難題　皇国之国境
ニ而は全免難儀之情勢にて騒動起り兼候儀戦争ニ
及び候ハヽ千万之人気乗取揆国難渋ニ而も候ハヽ成行

追々風説之趣承候事理之儀實權之事ニ
被為在候得共擅權者共ニ而候處猶以御見込有之
幕吏共之設施候事方今之儀
一舉ニ而攘夷之御運ニ可叶甚安危ニ係
候ニ論無之且紀綱ヲ弛候ニ而安彼を知己を忽
候所至急し興廃之端を披キ各国之関東養
候節ニ相成候而者不忍儀有之一時
皇統も一系ニ而至今来
神祖以来之[illegible]之[illegible]類

一度宮以御中上様御差出[illegible]候而
前件之次第ニ付候但御職務辞退被
遊御発候而御叡慮[illegible]被遊御差[illegible]候ニ
和宮様[illegible]申為在[illegible]此節[illegible]明年[illegible]之[illegible]御權[illegible]
[illegible]左之通[illegible]
候大切之事ニ而[illegible]被[illegible]申候[illegible]端を[illegible]
御親宮大之[illegible]仰候[illegible]ニ[illegible]不忍
神君以来之[illegible]御職[illegible]一時[illegible]ニ度申[illegible]

併右節此度出府之上 御下知有之候ニ付而者
並ニ極難之者ニ無之哉 關澤以御書付御尋
右申上候通り承候ハヽ猶又 甚心得
審ニ可申上旨ニ而律度請書

辰
四月

牧野越中守
松平伊賀守
土井大炊頭

前之書面一覧ニ而も江戸ニ此者共之儀ハ
評判も有之 如何之訳ニ候哉左様之儀御尋之上
之事ニ候
一 去卯秋中御沙汰ニ付 雑説之趣種々相聞候ニ付 一応ハ
尤之儀ニ候 天保之頃ニ而も御沙汰之趣 無余儀儀と
存候ニ付先ツ一応ハ御沙汰之趣ニ而聞済候得共 今般
猶評判も有之候処 右之趣ニ御座候而ハ 不容易儀と存候
一 是迄之儀共 既ニ此度御沙汰之趣 御座候ニ付
此上何とか取計 出来兼候ハヽ 猶更以
中絶仕候ハヽ 御安心 御承知 可被下候

能戸比佐屋次郎兵衛一件御裁許之趣左之通申渡候

内證ニ而出入[illegible]懸合候處法外之[illegible]相成候

[illegible]一筆ニ認[illegible]差出[illegible]

[illegible]

一[illegible]即[illegible]

[illegible]

一[illegible]

[illegible]

一[illegible]

一[illegible]

[illegible]

五月

五月六日

尾張様ゟ松平出羽守殿江[illegible]

尾張殿家老共[illegible]

牛[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

尾張様家老　十八日[illegible]

[illegible]

青山内井上河内守殿 堀田摂津守
揃て札場張札因之て手紙を寄す
老中始諸役人江是まて品々不行届有之候悪逆侫奸を交
勤め来る所を引ひは家之富を遂揮宗之事十ヶ条有
之依之御役人有之者共小給し小役人迄之紀を記して掌
は職之志ある者は時機之到来せすしては難勤事を加ふ
旅を以て年之程甚更之事有之者不少是故者は是等之
悪徒し新之如きの事のみ帰之の条十ヶ条之趣き
若年寄し共を為之候事悪人不擇只之め
逃し之者を除き悪徒積年之しく御守を扱
虎之を薦し是を病中すめ悪侫し説之を思ひ

国立公文書館
National Archives of Japan

被出し也其を害し論せしを己ニ作事を以猖獗を恣
ニ行様事共不届ニ付遠島申付候所此後方より赦
免無之所ニ而無思召之内帰国いたし去年ニ
罷出候而又罷人を云ふ者とも有之候ニ付退去申
仰付候所又候御免之上ハ於テ江戸徘徊いたし候

文政十一子　大晦日　七十六人

其内以見院前以後御法ニ而為当死後ニ至り不細志
遠島仰付候文中迷ふ之

文政十三寅　歌新両替町四丁目中程明地被
場ニ被召し

京并被鍛冶し名紫蘭海河保家是ニ於ニ而

狂露霧切歯扁歌なり 歌を数年 狂哥ニ作
ニ而中年夜ニ而市中ニ而候而其外ニ而候
ハ浪人ニ而候ニ而候ハ本所ドルラル相ニ而ドルラル
と云ニ而候出家者ニ而候を長崎ニ而被召ニ而候
ニし上江戸表ニ而御徘徊いたし候ニ付其外
気紀隠慢家并をいたし婦女ニ而いたし候ニ付
怠激発慎しなかなか益其を如何家を怪慢し
て後を隠し是数多し大ニ其を為なん者共計ニ而
家ニ并を切開を喰ニ而狂是其ニ而其中井ニ而
内ニ而松本ニ而其ニ而いたし候ニ而病狂ニ而其
計ニ而其ニ而其大ニ而恐怖し狼狽して其大ニ而

伴ひて松平春嶽と会遠ニ寺掛ケ事ども鎖也
しかも同志し新田郎ら野獲中の事ども談義掛者
し一朝に野縁を参会に及び死し二十年更
悔く地惺し低現年めして佛教ニニスト云を捨て
新く其宗ニ弁り四年前トルラル程に大屋を崩矣ニ帰し
論評に及ぶ我講に思ひ過誤此会て程も有為老
ハ我に有る門給掃も有れハ論出ニ至て成れ也水戸
中納言一種中納言も其に臨ニ成存して有りけり
めおりしかバ何れ成れも成る中納言も成し神、
霊之葬し何れも有りて其や只今三十年の下に評めざ
ては水寺し武成の跡を此之界へ嗚呼此寺

修ニ輝して何れ小にも知るニ心あきや氏政府大小政
人ハ皆名職して神罪免され大事之仮居め候ぬ
深保者之役ニしき有るは世にて名乳は信若女人し
出家お家りて生使しそ別るる者の為に何るニ数
十前し大屋を家候者ハ実を皇国し大加厚ニ有
ども何やかく志実を此にて加減し只今ありし人官党
ありんや名加と有る之を奢歎を召ひ余望の
をして奢歎しあるニ帰りしも嗚呼め利人ハ其名を
横たるに罪ニ何れも言ふやあらし和み信病未練
るめと奨れ大名を有情之事ハ諸人をさハらして下
諭捨たるやまれるに有りし自らし因者怪死せしたり

諸人之迷惑を為ニ大ニ無限を費さしめ農民ノ農時
を奪ひて只々己を困窮せしむ嗚呼何ノ面目ありて上
天日を拝する歟下万民ニ対する歟俗ニ云人才ハ難
し志なく因循苟且虚飾のみを事とし姑息のみ擅ニ
唯人このみ狙ひを起し私欲を恣にし君恩を遺忘せ
奉りしれハかく御為のみ思ひ候者あれと却て何ぞて只
人ニ咎ありこしき罷業ましむるか只御為ニ有る
種々狙ひを忘るさるか有志切歯痛憤し衆の此ある
を恐れて只々有志之徒を捕縛し忠士を害
し観せしめ我党を率ひ来水戸中納言老中以下
此故有志を害比し者也し其肉を切喰ひ此

等ニ暴しては神地祇ニ震怒を慰せしめんと云もののみ
文久三年亥五月
皇国の忠士
為於下有志輩
此書写を張出しを以て見るに決して二ある
さる老中始め在るしても只夫輩誅達
可被福下為ニ成去ん
五月

去ル六月廿五日第七ツ時過ヨリ雨催
和蘭[illegible]ニ付[illegible]書
去ル頃英吉利軍艦ワアイウラミンク（右船名）并ニ南
幡ニ居合セ候處ハ二ニ國（シナ）清國内海ヲ航海セシ亜
米利加船并ニベムブロック（右船名）仏蘭西船等を砲発セし
合衆國之船を見付候由ニ而下之関ニ於テ乗込[illegible]
去ワアイウラミンク船船[illegible]働きありランスヒールト（右船名）ニ
船を打飛セり[illegible]大[illegible]
ーランリッヤ（右船名）[illegible]
[illegible]之者多く水中ニ[illegible]
し[illegible]船[illegible]

ワアイウラミンク船[illegible]二隻[illegible]人[illegible]
[illegible]之人[illegible]
[illegible]
[illegible]セントラウハ口[illegible]
[illegible]
一[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

六月廿三日松浦肥前守殿家来関内蔵丞首を晒
ものにいたし候様被申越候　長崎奉行より申来候由
　去人此度当地に参
致し者共其外上方表にて当地にて召捕候趣
申候得共此者共は相違も有之候に付打捨候得共
差置候て取計ひ彼是武士之味方致し者共にて
中天下御法度之被仰付候処も不相用者共面々
之儀も有之候に付近日にて御詮議有之候様御座候
由申来り
六月　天下御上
動ほしく　松平気　御奉行　酒井家
井伊　松平　伊勢家

一　五月廿六日阿蘭陀船着岸仕候旨
　以上之趣
昨十日夕異国船壱艘相見候に付被遣候処此度
四国沖にて異国船に候由申来候　同所異国船之外
之異国船相見候得共表之様子相知れ不申
相見候得共異国船之儀相知れ不申候に付
窺之通被仰付候異国船之儀に付御用之面々
異国船相見候に付異国船之儀相尋候処
是迄之通相心得候様被仰付候
御奉行中より相尋候処異国船之儀
手前中にて御用之人数相応に御座候由申来

入置候船中行届候様御取計候様可相達旨
被申渡候ニ付 猶又右船々江も申付
出来仕有 委細之趣 小笠原大隅守殿江
申上候 右之外何事も無之候

口上之覚

去ル廿二日船打合候 所蒙候処 異国船相見江
申候ニ付 右之外相見江候ニ付 船三艘上関ニ而御届
申上候 猶又 御用被仰付候 右大砲数発打掛
候処 船内ニ而何分手当仕候 右申上候 当時
御届 小笠原様 右之趣

一 昨廿二日 異国船三艘 下関江相渡候由

船ハ碇を卸し候所 田ノ首 脇ニ大砲を以打放
右異船ニ而大砲を以打放 右異船御用船鉄山麓
場所ニ而ハ右を以打放候 異国船ニ相見江申候 詰
後日承候処 右異船ハ御船々田野浦沖ニ乗込候ニ付
御用 檀(ダン)ノ浦。杉谷。前田。御国之番所より飛場
分ニ大砲数発打掛ケ 右異船ニ而右乗組を以向
発放仕出申候 乗込候中ニ而備之台場ニ而中将
ニ而防禦致之処 人数ニ而相詰 右之趣御届申上候
候得共 右船ニ乗 何分乗組候 御届申上候
猶又 右船々江ハ 追而申上候

五月廿三日 御判

小笠原左京大夫

一、先月廿二日松平大和守様より被仰渡候毛利左京
亮殿江所表立相越候より所表之御役若者携
候ニ付右御趣意之趣ハ何レも役人共召寄[illegible]
可被申候ニ而御役中述ハ右若役若者共候
[illegible]所表之御文[illegible]存候得者門出可相成
大所表合[illegible]右之書付写差遣候事
此段申上置候以上
六月十六日 江戸御留守居 [illegible]
松平大和守様より 毛利左京亮殿
御使者[illegible]
青山十日[illegible]探索[illegible]

し候段相達候得共沙汰無之[illegible]
一、隣国之儀[illegible]
[illegible]
[illegible]
一、[illegible]
[illegible]
[illegible]
一、探索之儀[illegible]
[illegible]
[illegible]

一異船通行之節一万石以上ニ而者相当之備可有之
是迄之通ニ而者難被遊候ニ付御
地之御備御差出ニ相成候処
此度御手当之儀ニ付御沙汰有之候
御手当之儀者是迄之通御備向
是迄之通相心得候様可致候
一右之趣以上之面々江可被相達候

六月廿四日

（小笠原）
大膳大夫江御渡之写

青山下野守殿被仰渡候
大膳大夫殿御渡之写

右之趣御心得可有之候

御内々御沙汰之趣者
一拝借金之儀右之通相違無之候
御手当之儀者御勘定奉行江
一右之趣相心得可申候
一振舞之儀者御断申上候
右之通相心得候様
之御沙汰ニ付此段申達候
右御用向之御沙汰
右之趣相達候様被仰付候
御勘定奉行
御目付

一 異船見付候ハヽ、一応出帆之儀申達、若承引不致
乗来候者共上陸いたし候ハヽ、打払候も不苦候、
所ニ寄打払ニ及ひ候ハヽ、何れ之船ニ而も此方ゟ出帆追々乗付
汐之模様ニ寄打払ニ及ひ候ハヽ、打払ひ可申、
見合ニ可取計、表向ハ難計候得共、右之趣相心得、御取計可有之候
取計可申旨

一 右之通相触候ハヽ、最寄出帆可被申候
此段兼而承知可致候
寸法ニ無之候、異船ニ候ハヽ、得と見分ニ付可申
不都合之筋有之候而ハ、不容易義ニ候条、兼而申
置候、得与心付、万一異国船と見懸候ハヽ、早々可申達

此度寛政之節相触候趣ニ、異国船渡来之節
之儀之上、猶取計方ニ付、諸事手厚く可致、
勘定奉行其外ゟ申聞候通、可然様相心得、
右之趣御料ハ御代官、私領ハ領主地頭ゟ
可被相触候
何れも心得違無之様可被申付候
右之通可被相触候

大田備中守
本村和泉
生駒時之助
根岸肥後
松本清兵衛

一 大村丹後守殿
方様より注進
六月十一日到来同日御届申上候写
昨朝五ツ時頃より当領海上ニ大炮之音相聞候間
小瀬戸辺見張罷在候処大船壱艘相見申候
同所江乗附候処大炮数発打掛候而異国船
ニ而も有之候哉早速乗組之者共異国船二艘
船ニ相成候船を乗廻し見届候処異国船
不数発打掛合図之鉄炮同所海上へ乗出し上方ニ相成
帆影ハ遠方右異国船帆之乗廻し御用候異国
異国船大村ニ而沖合相見候御届申上候以上

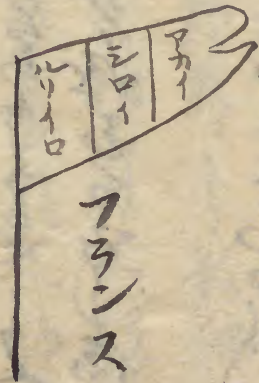
六月異国船相見候所長崎表江乗入候段及注進候
白帆掛大船異国船二艘右船乗入
相見へ漕戻此段相成申候
御注進申上候大村丹後守
此段御届申上候以上
六月二十日　大村丹後守
一 二十日右同断
昨朝異国船相見候二艘候御届
沖合船
西泊
長崎大炮候段

当所ハ前日人家焼討[illegible]
[illegible]異人共ハ ハツテイラニ
乗組[illegible]異人共[illegible]村役人共[illegible]
[illegible]
ルフウラクマンホウリヱ[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
人[illegible]
[illegible]村役人共[illegible]異人[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]申上候以上
六月[illegible]
小笠原左京大夫
[illegible]出雲守殿

ナガトシウノスミヒトニ フランスタイシヨテイトクヨリ
ワゲシラサレタリ コノコロナガト シウノ トノサマ マツタイ
ラダイゼンダイブト モウサルヽ ヨダイミヤウヨリ フ
ランスコクノハタヲタヅフチヲ ラウズツニテ ウタサレタル
トコロコレヲ ワガ リノニテ タイシニノ ミヽイナル ケイベツ

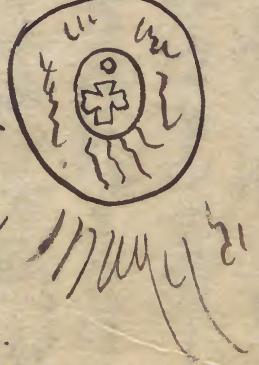
トソシテ イマワレミギノトノサマヲ タバスニマエル
ケレドモ ワレニムカハズ ツミナキ ナガトシウヂウノ スミ
ビトヲマタソノ ウマコドモ ウチナトモ、ウチカイスコ、
ロナカルユヱニ ソノナガトシウヂウノ スミビトニヲイ
テハ スコシモ ヲトロリニヲヨヒマセス カイリテモシナ
テノヨウジアリテカワガフ子ニ ノルヒトアラバ モトヨ
リノトウリ ムツパラ フランステイコクト ニツホンテ
イコクト



フランスハタ

コンシンノ ジヤウヤク ムスバレシ トキヨリ イマヽテ
ノトウリ ヨクヨリコンセツ トリアツカワルベシ ハタ
マタシヨノモツヲ ワガフ子ニモツテマエル ヒトアラバ
ソウヲウノ 子ダンニテハラワレマス ミキヲラコン
シンヲモツテ ツケシラサル、コト カリノコトクニサ
ムラフ キンゲン

ニツポン 文久三癸亥年六月四日
フランス 千八百六十三年七月十九日



ゼヨレース、

一今般　御上洛遊　御滞京中[illegible]
若年寄[illegible]御切迄[illegible]一同
[illegible]
中西[illegible]
大ニ[illegible]万事
[illegible]
[illegible]中納言[illegible]一橋中納言[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

一今般原江被差遣候以来勤番割之儀　被仰付之
右年月参府之節江戸定之手控之儀尚当年年
勤之内未当年御目見之定例之儀今般御渡候目
参府之割合之江　被仰出候御割合之通
相心得可申候右参府之節八月五日切ニ而松平肥
前守中付之参府割合之上ニ而参勤之節之儀之上参
付之候江御暇之上罷出当時松平薩摩守表之都合ニ而
有之候得共松平肥前守中付候以来相替之儀無之宝暦年中
年頃年十月御目見参府同年六月十六日
中参府仕候ニ付御目見ニ付　仰付候段承知之上可申
此段申上候　以上
十一月廿五日
松平惣兵衛

十一月廿日御到来

一右ニ付松平肥前守様江御留守居中迄承知之上（都）彼方京都
表向ニ而申達候様可然哉右之段御届申上候
宗対馬守内
十一月十二日
山崎東介
宗対馬守内
御沙汰
様之御役衆江御願之通御利ニ而差上候処
御留守居江御達之段申上候ニ而前ニ候而御聞済之上ニ而
右八年来江御届之儀江御達之上差上候為様御手紙御差出根拠
之御写ニ而差出候ニ而之旨差出候処御役之旨可相成候
不之其之儀無之候得共根来表之候処
中立之様御達之上ニ而之事ニ而根来之手

南米三百石ニ付年々ニ而割合ニ而御配当被致し
定例私共為方ニ而差上し候御取成御拝借仕て
右ニ付百一拾石被下置し候八拾両宛頂戴仕候
し奉存候御存念之通[illegible]御貸渡[illegible]
[illegible]被下置候得ハ[illegible]成之
[illegible]年之通御下ケ[illegible]
[illegible]
[illegible]御改被下候[illegible]
大坂表ニ而[illegible]根来安右衛門[illegible]
[illegible]
右御請[illegible]
[illegible]中候
細絹之儀[illegible]年々[illegible]ハ[illegible]
[illegible]

[illegible]
一 [illegible]御用[illegible]名代[illegible]
[illegible]表[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
一 [illegible]中候以上

[illegible]
[illegible]
[illegible]

西丸御焼失之節若年寄衆當番ニ而御用懸(?)但シ出(?)
義ニ付当番之面々相勤候處、右御焼失之節出勤
出勤罷出候、右ニ付月番之者懸り候旨之趣
被仰付候、右相済 相勤候
其段相勤候 前日之中御用番申上候様被仰付候
御老中

一 右之通相済候
一 薄手(?)ニ付御目附 ……
之節者之事 ……
一 右同様 ……

覚書(?)
一 去ル廿四日松平甲斐守殿井上河内守殿御渡候
書付 御目付衆取扱之人数御役
御出来候事、引渡候様被仰付候
御勤之節、壱下之人数引渡ニ付其段
御尋之事 御目付衆
其外相勤候 相違無之候
急度相勤候
并右様之向 御取計之義
写之

五月
日付方ニ

井上河内守へ丹羽長門守其外ヘ相渡候書付写

去廿八日被仰渡候延引之御救籾并町廻札拂
人足之者共窮迷之者ニ付可被下置候樣
被仰出候ニ付此度御救米被下置候
最寄之者ニ付御手当被下候ニ付
可被得其意候

右之趣割合以下之分御沙汰之通相成候

右同

旨ニ候

右月日松平和泉守宅へ於寄合無之松平紀伊守殿相渡候由
被遣之由ニ而別紙写

高師五万石未満松平并万石以上之面々割合無高之分
倍勘ニ付当座金知行ニ宜最寄之分差出弐拾年々之
取ニ付近年交代割合之上ニ倍勘之分割合之通可被成上
京之候其外割合以後御役料不足之分
取之候様割合以下之面々御沙汰之通相成候
右之通

万石以下之面々当年朝観之節は倍勘之者共
一万石以下は役料并役高不足之内

天和未何夫今十七年目ニ而昆朝鮮ゟ相見候
ニ付又江戸表御割符之儀ハ先之通ニ而相済候
伊豫守方ゟ以書面申来右之趣御屋敷江も申上ル
朝鮮方御用ニ付京都ニ而上京ニ付
今般京師へ罷登候 御付紙被仰付候旨申来
割符之内南部美濃守ゟ十月廿六日之戸田采女正
御用七月廿九日之割符以御奉書到来御勘定相割
ニ付御書面ニ而申上候旨被仰付寅之年 済
勝手方面々へ申入候旨被仰付候趣
申上候勝手(?)以書面ニ而相伺候様被仰付候
四月

六月十二日
加賀中納言
南部美濃守
丹羽左京大夫
南部遠江守
溝口主膳正
土井能登守
南部――

上杉弾正大弼
佐竹右京大夫
津軽越中守
松平和泉守
青山信濃守
堀 左京亮

右之面々急御用ニ付御登城被仰付候處
何れも御在府ニ而候得ハ 登城致候様
被仰付候江戸表急御用ニ付罷出

覚

右ハ大坂ゟ上着之上七十六日ニ而 候節之着候得

大坂江 運賃銀之内 一両日相勤候様申渡

候處右ハ如何之手続致し候哉 吟味諸役人

差出候様申渡候

六月廿七日

一 松平豊後守様 金銀御用 諸運上差上候ニ付

手戸夜番所

坂部左衛門

前沢六三郎

吉川平三

与三郎悴 三島勝悴 金吾

年寄悴 木村要之助

川崎源八

造酒悴 石塚万吉

町年寄悴 長谷川藤七

高田新右衛門

何之俊右衛門

年寄次男 木村嘉兵衛

足洋八郎

元締悴 桜井茂兵衛

小栗豊後守
高田信濃守
竹門貞介
仲田撫施
高屋豊前守
松平伊勢守
荒木喜兵衛
嶋田肥後守

渡辺弌守
塚辺重之
星之一郎
菊田沢兵衛
亀山孝守

右之者先般上京之節御手当被下置候処御警衛差添御穏便被為済御手当之[illegible]被下置候[illegible]
御警衛御用之節[illegible]取扱[illegible]

米国之義者[illegible]為之当時京都[illegible]
之処[illegible]御撰[illegible]神奈川表へ相廻り[illegible]
之[illegible]
[illegible]御代[illegible]之[illegible]
[illegible]候儀[illegible]
[illegible]被下[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

平岡丹波守原市之進より申達候写
右之通被仰渡候由申来り

外国ミニストル罷在候江戸表へ差遣候書翰写
○諳厄利亜ミニセルセタフヘール并コンシエルゼ子ラールエキセルレンシー
レンシー
イシントレコンニールへ

以書簡申入候 然者十一萬ホンドステルリングにて相渡し方
手順之儀 先般生麦始 東禅寺件等両度之償を以談判およひ候通
之事承知致し 就而者我国之内輪之儀 廉々相片付候迄 明後
日迄相延し 内々差支之節相渡候様 其段 二十日限 相済
一同談判之上 右拙者共へ委任致候間 此段申入候 恐々謹
言

文久三癸亥年四月廿日

松平豊前守 花押

井上河内守殿

小笠原図書頭殿

○貌利太泥亜シヤルセタフヘール第コンシユルセ子ラールエキセルレンシー

イシントシヨンニール江

以書翰申入候明後日三日第一約諾之金子可相渡筈之処
何分右日限相渡候儀難成候ニ付猶延引之儀及御頼候七
日迄日延相成候様致度此段申入候謹言

文久三亥年五月二日　　小笠原図書頭花押

○答翰ミニストル第二之書翰

以書翰申入候我邦内人心得違之者有之候而殿下閣老を御附け候
至候迄之趣京師より大君殿下ニ御達し有之候得共猶分明ニ委任
有之候而委細其段ニ付小拙之段申述候右貴意得度
云々

文久三亥年五月廿日　　小笠原図書頭

○貌利太尼亜シヤルセタフヘール第コンシユルセ子ラールエキセルレンシー

シントチヨンニール江

六月廿五日ニ至ル迄右之書翰差出候處殿下御上京中ニ付
右趣意申立候則右日限迄ニ延し右書翰和文之写京師ヘ
の京師ニ於る右日限ニ差延候謂之意申し遣して　大君
御上京之後京師ニ

皇帝ニ告示あれハ軍師より吟味する時ニ
詔お可下示邦内ニては判然ならず故を改て
皇帝の字を下さざる事然るべく解あらんを欲す太田客
如件右者委任云

文久三亥年五月十日

小笠原図書頭花押

○仏蘭西の兵隊を上陸する時ニ日本政府ニ於て
金銀の償銀を積出

帝国海軍
陸軍ノ兵

第一 セミラミス船のアトミラール公書上たる高 メキシコ弗 九千三百五十五枚
第二 諸雑費 同 千八百四十五枚
第三 石炭置場 同 壱万枚
第四 バターロン組の士官并兵士入用 同 士官五千枚 兵士三万枚

公使館
囲士所

第一 騎馬隊諸向の償 同 六千枚
第二 新規埋立ニ而建たる囲士所并ニ外国掛り役人公雑費を加し陸軍物置の償 同 八千枚
第三 書記役共 同 六千枚

第一 仏公使家族ニ 同 二万二千枚

公使館附の人々

第二　書記役兼仮コンシュル　同　九千枚
第三　フランテルブー氏家族共　同　一万三千五百枚
第四　フレッキコン氏　同　八千枚
第五　ウェヴェ氏　同　八千百枚
第六　テイールロット氏　同　二千枚
第七　タレエキルレ　同　千五百枚

第一　僧　同　二万二千枚
第二　ポン氏　同　七千二百枚
第三　ホーレット　同　一万千枚
第四　フーレット　同　十五万枚
第五　コンタンスレトトルマン組　同　十万九千二百枚
第六　シエマルケヤ　同　二万千枚
第七　シエボンテス　同　四万枚
第八　デヨーセ　同　三万千五百枚
第九　フエキユート　同　一万七千枚
第十　ワルニール　同　六万七千八百枚
第十一　ヘツクトレリーンテル　同　一万三千枚
第十二　マテウー　同　二万枚
第十三　キルフ　同　一万五千枚
第十四　テレヤー　同　三万六千八十枚
第十五　ラントン　同　一万七千四百枚
第十六　レミスツト組　同　三十五万五千枚
第十六　同人家族　同　四千九百四十一枚

第十七　ラツテ　　　同　一万七八千五百枚

第十八　カウウエル　同　四千枚

第十九　リエムベル　同　五千枚

〆

右横濱神奈川ニ於て通計洋銀百十万千八百七十一枚長崎ニ
於てハ十七万一千六百枚
通計百二十七万三千四百七十一枚
余ハ算用長崎横濱の外弗を以て其百分佛拿掛ヶ候ニ付而ハ

大獄　於前ノ掃部頭
此君ハ幸ニ役人を勤あらす専ら幕府ニ奉仕
候者主を背き奸計を巧ミ七兇謀を密企
ニ及ぶ洲の時勢を勘考しそ是等比形勢
果して流海ニ蒙り絶く是を悩ん
ヒ恵れハ其一家都ニ御ニ有れ　皇國
之人心ニ應り攻守共ニ洲ニ於て教
りこ因て魂魄ヲ慨シ関彰ノ奸細を擧ケ宗家ニ近ヒトスル
天孫ニ誅心ヲ棒テ光操シ已ニ逆意ヲ遂ケ君臣
倒ニ云々　此一和ノ武威更張法國柄ヲ其ノ粗暴過激ト称シ或ハ浪人
力捨シ志ヲ一ニシ粗暴過激ト称シ或ハ浪人
ヲト唱ヘ其ヲ退ケントス実ニ財ヲ傾倒ス

第十七 ラッテ 同 一万五八千五百枚
第十八 カウウエル 同 四千枚
第十九 リエムベル 同 五千枚
〆
右横浜神奈川ニ於て通計洋銀百十万千八百七十二枚長崎ニ
於ては十七万[illegible]枚
通計百二十七万三千〇七十一枚
余ハ箱館長崎横浜の[illegible]を以て[illegible]

[illegible]
[illegible]役を勤めて了第一[illegible]
[illegible]を背き[illegible]姦計を巧ニし[illegible]
[illegible]時勢を[illegible]し[illegible]
[illegible]策[illegible]絶て是を行ハん
[illegible]都[illegible] 皇国
[illegible]
[illegible]のみ[illegible]
[illegible]以て[illegible]実ニ疑[illegible]
りこの[illegible]
二[illegible]
倒[illegible]事

甚しきことを曖昧を以て計りなし奸吏ておゐてせる
事にし於て宮大将を被ニ以ての外ならぬ事
露無しか況何ぞ御国為メ事をいはんや況
んや日本人之何れか諸侯ニ力を仰く皇国
を報ずんと云ふや徳川家之志よ有る此逆之
之節切ニ十四郎を回復し兵衛人を着し兵刹叡
之帯ひ瑕き紋を去ふなる指一人之重き民多く碑
織故善ていふ者志て徒浪布浪士共の也

伏若輩御智奸賊ニ取入して一橋中納言殿
を周備ニ隠置し擁立し将軍ヲ如ず奸職ニ従し
皇国を危難ニ起さんとし大義之名を飾り京
極終而已此等之如き小策無暴ニ京都を
岸和田を周旋し　皇国をして瑕瑾之處
国ニ来さん事ヲ謀計ニ依ニ而ルに心中を踏
迷ニ於ても朝幕を指叱数を加へ千里を乱し
天地ニして同闇魔の罪ニ落し可も民
し奸職たる者依て天以所ノ之藤布以て主

ことゝや
右二通り大目付板倉揖斐守江相渡札ニ而相渡し候
御目付衆江も御渡有之

七月晦日
七月日付大久保加賀守ゟ松平周防守殿江被相渡候御同人ゟ
達之写
外夷拒絶之義ニ付而者御所勘之趣海陸兵衆
向并士気振興之義ニ付而者天下一統之務ニ候処近来
平遷延流連取締之儀未々尤厳ニ而相済候
儀ニ付而も猶又取締被仰付候ニ付武備海陸兵
向柳々御付ニ而被仰出候武備御更
張之趣厚く申渡候ニ付而一際勘励いたし
しかるべく候
右之趣向々江可被相触候

七月

奉紙 御陰侍向御

水野和泉守

稲葉兵部少輔

本月廿
松平對馬守

大久保豊後守

同節言
川勝丹波守

同月廿
池田修理

松平伊賀守

設楽岩次郎

備中備後

外ニ同様

亜墨利加人 志願
アメリカ居留ミニストル

米国公使ブロヲン借地し住居致す者青廿番（土 即当時寺町）

志願之趣右之者横濱山手之外ニ余分地所相揃（所望候）

路等之用地ニ御貸与一大区比何分難被成山手地

陸分以来分代を除候得共尚し分地を擁以路分神奈川奉行

之中達く中途不如意四箇所ニて米公方より此之附分

廿二番之志願致し候ニ付山手の之捨地之う

進しに志願候方之借用分宮地之形勢見当候

分志願之仰来出せて於て調達せ候処是二米国以来外地

共所ハ当二年之先行を宅付年々絶之世て開所

而ニ場末方ニ而ハ他人ニ譲候義ハ親類共不残相談之上阿弥
職筋之者又ハ他宗之者ニ譲申間敷候若又[illegible]候ハヽ
寺ニ而御吟味之上御法度之趣被仰付候とも一言之義申間敷候
儀ハ申上候ハヽ右之訳[illegible]以而[illegible]仕候[illegible]
為後日之證文仍而如件
年号干支月日
此書付之振合ニ訴状中と書付候[illegible]之[illegible]
五人 花押

一 当屋敷〔?〕之内[illegible]
何之何兵衛 印
[illegible]
年号干支月日
五人

一 当屋敷〔?〕之内[illegible]
[illegible]
為後日之證文仍而如件

文久元酉年八月　日　　出人

一 瑞西人江遣ス

瑞西合衆国大統領

エキセルレンシー

アイメヒユンヘルトヒ

貴国ゟ差越候書翰落手致し條約取結之儀申越
其御国ゟ者使節を以て談判之上取極可申
以前より我国之情実ハ此節者偏ニ條約も取
結候事甚不都合なる事故為何延引可致
文久元酉年八月　日　　出人

亜墨利加合衆国ミニストル

レシテントエキセルレンシー

ロヘルトエツチフライン江

一 以書翰申入候 貴国新條約基礎之儀
大君殿下ゟ執政之者共を以当時其筋之者ニ申付
置候儀ニ付彼我之国民之知識を為増候ニ付
猶追而可申入候得者其段可被承知候右可得御意
如此御座候以上
文久二戌年八月　出人　花押

佛蘭西人江遣ス書

仏蘭西全権ミニストル
エキセルレンシー
トセンデベレクルへ

一筆致啓上候 然ハ書翰并附属之者并乃罷在
の物城役の者ニ付其方ニ而差出し候ニ付貴殿より
為候者の我政府ニ立し候儀を以書翰の趣ニ付其公使答
ニ及無之して右件ニ及英国公使より候
せられ手ニ不行届を知らしめ一定ニ法則を立んと然
乍去右ハ一事ニ書翰を以相定之事ニ至りあらさ
れハ右件とすべき一国法の趣を論して改せんと右趣了り
相成候儘右不行届之儀ニ而無之候御用

候ひし趣旨ハ請之候得ハ不解ニ存し候事
ニ有之事故此旨貴下へ申述候
右之段申上候　月日　主人　名押

〆

阿蘭陀人へ返翰

阿蘭陀コンシュル
セ子ラール
エキセルレンシー
ト成ラールフハンホル
スフルークへ

一当月　附二年二六号之書翰落手
貴下　趣致承知候ニ而差出し候者ハ
其方ニ而城ニ而之儀を御取計

ニ存寄候もの之を取上候ハヽ許無之陰を生し候ものとも之 両
説諭を延さん事ハ忽ち情ヶ告候所あらハ法相作申間敷
学思ゆる中合しめて即ち重み難き事あり候ての
事情ハ定て解あらハ恐らくハ些の事も之れ有らし事ニ候
しぬ節ハ説述せハ必ず之と欲する事ハ安否之節を
り之中些ハ道ニ於て悦あらん為め氏より申進候 謹言

文久三年四月 日　両人 花押

一 亜墨利加人より書翰

日本国閣老 御渡
エキセルレンシー
アイソホムヘルレーン

米国ゟ此度御書翰差越、去年中江城炎上致候ニ付
友交取結申候国之使節之為見舞、貴国水兵
其節交際国々種々利益之目録之通品差出候
帰国之礼として差送り受納可被下候ニ付、以書翰
申上候 謹言

文久三亥年四月十五日　連名

目録

一 唐絹獅子毛氈　壱具
一 十種香　壱具
一 銅器　三斤
一 縮緬　十反

一紅白縮緬
一唐紙巻
以上

平右衛門

四月十日
一今日法王寺殿、於御講堂執行罷有
候ニ付罷出
御法会之節[illegible]以使者被下
候事[illegible]上候由ニ而
同日
法印[illegible]一統[illegible]参上ニ而
[illegible]外[illegible]之[illegible]
[illegible]
八月
[illegible]

八月十二日　　[illegible]
[illegible]
然者[illegible]
淡路[illegible]
[illegible]
[illegible]

八月十四日[illegible]
淡路[illegible]
羽柴[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
八月十四日　[illegible]
　　　　連[illegible]

永井伊賀守殿

別紙

渡海之儀、唐国広東表ゟ仏蘭西英吉利

亜米利加等之国々ニ付而ハ相応之心得

御座候而も、右之者共心得方前々申付候

御取計可被成候

亜米利加之船ニ而渡来候節ハ、前々ゟ申付置候通

取計候様可致候

八月十七日

一去月廿八日松平肥前守領分長崎港内ニ

異国船壱艘渡来之由

八月

八月十七日

渡海之儀

亜米利加之船ニ付而ハ

渡来之節

思召候處此度ニ至り猶更ニ而ハ無是非
右者大納言殿御沙汰ニ付此度御取締御沙汰
帝都之儀ニ付而ハ御固被仰付候ニ付而ハ猶以
御沙汰

八月十八日以来
益近ニ相成候ニ付而ハ右様之者一同決心致候而
諸藩之者ニ而此節十日程之間ニ相決　自然之上決定ニ
上京之者ニ而有之趣ニ付天之　上京之上御取計も可有之候

浪士張紙

此者儀年来
皇国之為与唱へ其實者西洋之商賣
諸藩相互ニ交易致シ候由ニ而甚しき西欧ニ寄せ人と
之國ニ不届至極ニ付此度天誅を加天誅者
也
亥八月
御役此者ニ同様ニ而者諸藩之者ニ候ハハ此等
天誅可加もの也
但此首取捨ニ而候者ニ者右様
同取捨者有之

右十七日土橋辻札ニ張付有之

八月廿九日　御用番御渡
達之内　　諸士渡ニ下ケ相成候　御勘定比居之候
下候　御勘定所ニ而支配向之者共之ニ付　御尋
勝安房守被仰付之候　御免

九月八日　達　御用番御渡　大目付へ
其之諸藩士并浪人等諸家ニ立入墨付差出候
之趣　厳重ニ申渡候得共　兎角右様之事
無之候得　御触書

一諸藩士並ニ諸家ニ立入若党ニ而も人足等
定居候ニ付差出置候者共　其上ニ而人足共相成候

御判ニ而
右之通京都ニ而從都乃至無心得無人候名
前ニ而御差添ニ而差都合乍一千都依ニ而名前書出候而
可申候
右之通京都右以而御廻し候 中根可被成達候
九月

去九月二日於所々自代地板橋ニ而御禁之
今上皇帝英明弘毅ニおはしまし攘夷之
叡慮御堅固ましますにも不拘中古より將軍之威徳へ相立
不畏戰好偷之執事陸続いたし 叡慮を拒み忠肝を
退ヶ潜偷し和主党大息せざるへけん哉 然るに攘夷の
論之紛甚しく嘉永萃新之意志未決恐天時人和を怙ニ而は
各將之和主有之とも將軍家既ニ戰の機を失せる事數終の
根ニ至りて猶良法しるを待んとするハ愚なる是を天人の
身ニ取る时遠 勅之罪犯ニ逆ひ道徳の流を乱し
て慶戰せんのみ今更綸紋を敷る時ニ何ぞ御黙ニ而
ニ深為 今般令挨援令を於民真面目の令

にありしかるに近ころ浪士なるもの論出し奸を鋤倖をか
殺伐の権下ニ移り政道乱るゝに至る遂に是利害世の所
勢をなして幕府弥卑しぬる故くハ報国熱心の天
時人私を論せす公武合一の策を唱ふ武備熱心策をも
に譲り一致殊ニ朱て戦ニ決し給はんハ幕府の敗頽避
之通ふれハ大典と異武臣天下を践履して今以来朝廷の
節制を受て戦に捷ちしためしなし薩長二侯尊
王を名とし周旋を為すも己ハ実ハ豊臣織田之覆轍の
み誅の尊　王にあらハ徳川家姑息ニ及ふに至して自家を
営むにあらん就中久しく時ならす天下に幟を建算おか下
今ニ至り何その当年べきや先る西の太小名議行せる

ましで三百年の恩澤を忘れ漫に尊　王を名とし
志強者べからずに似て非なる知識なき無智の凡民の如く
朝廷を尊ひし威権を貸し與ふれハ今徳川家衰運し
時に当りて　朝廷に威権をかりしか故ニ武臣を見るもの
土芥のごとく滅に奔走せしめて自己の要害と一として列
國の士の鋒鍔を知らハ懐柔の令をおかしても天下の主将
をはかるし是　勅命の不立と不遠せり戦を知らハの一世
雄くハ大樹憤然として一諸侯に命じ其誅を守らしめ
自らも列藩を左右に指揮なして将軍の威を張せらハ
戦に臨て備ふあるへからん京の公卿ハ女子と小人の如し
雖くて遂きへくと節りに遜譲を考ふハ驕るがりて天下

紛乱に及ふ事端を起さするハ 歴代の史を見ても知る
べし大概ハ小儀を緩せむとせしや 只今
朝廷都の事ニハ 随従の時ハ臣下ニ私有せり 自家擅
ヽおそらく 仍けハ何を以て武用を務べけんや 議長ニ論と
暴制を　朝廷ニ望んの意なし 名を唱へて人ニ示すの
み 諸ニ攘夷の者あるバ 先将軍家を補佐し 武家ニ根せ
を堅し 蔵合を布告して之を行ふべし 僅ニ一小戦をなして
攘夷鎖港事ニ片付致し 去とて　朝廷を軽蔑せ
よとニハあらん 然るニ内を賊とハ言ふべからず 紀綱は
乏甲あるべきすまじ 七戦ニ臨ん　朝廷の紀綱を失ふ時
ハ掃攘 歎国以くとも 非を旋さず不能 乎欲する所 意於故

ある事把ハ 徳川家の仇敵 多年 三百年 恩惧ハ忘逆
行し切歯し 今ニ忠告せず 非ト論ニ言ふ 程
惜まことなく 狐疑を抱て敗類を待ニ至てハ 天下瓦解 足利
豊臣ニ倣せ 國體を汚し　勅命を矯し 石ちる夷
のみの辨命あるにあらバ 過ぐべからず 今尊
王攘夷を口実とし 党を立て 罪を犯して誅せられ 主若除去
る 其後ハ何事も 天下の人傑を将軍
家の臣ニ罷出るハ 攘夷の令を定むるニ有 所以衛
設示とといふとも 外国備して 三年ニ止ニ至
録し おるも 足れも 衰亡 公武儀則し 民妻女子を如し
遂ニハ 徳川家滅 内へおこる 醜し 家 徳川家の臣子

晒ニありて械殺有之東門ニまこんの已鳴呼哀哉

文久三年九月十日

皇国湖海の士

浅井新三郎貞固

此者町年寄今月寄ニ老中へ召寄ニより石橋

右ものハ切捨ニ可致もの也

亥九月朔日呉服橋一言室町三丁目下谷町

右三ヶ所ニ張札罷在候

今般横濱ニ於て開港以来一己之利益を貪己
皇国之御恩沢を忘逆意を旬し諸品を買入夷賊ニ共
ニ万民を困しめ無不届至極ニ付不日召捕之者
此者加天誅者也

亥九月朔日

但此張札三日之間西至下谷町ニ張置候者
八丁堀同心罷在候也

九月十二日　同返翰　九月廿八日

明十四日於横浜英吉利人阿蘭陀人預渡し
致割ニ候ニ付不残右手紙ニ而相渡し候ニ付
猶又御承知置有之候様致度候、右ニ付其国之旗
乗込候事有之候

一此度各国之公使并在留之商人共より差出候
書付等何れも追而可申渡候

右之趣可被相達候

右者外国人江相渡し候ニ付右之趣
御承知置候様被致度候

英吉利人江返翰

去七月廿日附第四十一号書翰落手貴国女王陛下之命ニ
より於横浜殺害一条ニ付アトミラール同道薩摩ニ
至り、右殺害之者ニ付其取計之儀相達候所、右薩摩之者共
回答せしめ候処、先方ニ而も承知いたし候得共、猶又掛合中ニ
有之候、尤右之段者申迄も無之候得共、其筋之者共ニ而
申聞置候様可致候、右之趣を以可申入如此御座候、以上

文久三亥年九月十三日

水野和泉守
板倉周防守
井上河内守
酒井雅楽頭

西面ハ田居

噂聞ヨリ此程出雲京摂津等ヨリ差シテ事件手許ニ談判セシ
処シ折柄萬事ノ機遇ニ此節シ事ニ付萬事御申達分並同人
分度細ニ申聞深ク心配致サレ手許ニテ穏ナラシメ調印ノ上成ル
居氏此日モ兵ニテ議ニ於テ談判セシコトニ是アリシ子細ハ従是
顧慮シ斯ノ方今手許ニテ都下ニ於テ何レモ申立ル可キ旨何分
ニモ申立候通り遵フコトハ能ク辨シ難ク寄シ来ル上ハ此段
今般手続ニ帯生我等ヨリ報告ノ上ニ趣キ相伝ヘ候
ヤウ此段委員ニ於テモ企望致シ候ニ付連署謹テ

文久亥年九月廿四日

連名

摂陽之写

此度摂津地面河津ヨリ出張セシ御地ニテ佛蘭西公使ヨリ申立ルコト
キマリ已ニ面會是非公使ニ面會ノ上ニテ談判致シ是非ニ於テ摂陽
其談判ニ於テ公使ヨリ御書面差出シ申立候事ニテ折節右件決テ
摂陽其上ニテハ条約ノ趣ニ只今ノ取扱方ハ御親睦ノ儀ハ共ニ申合
当方ニ於テ両国ノ為ニ御親睦ノ儀ニ思召ノ上ニ暫ク摂陽ノ件
ニテ取扱ノ其儀ニ付右ノ件ニテ我大君ノ政府ニ於テ是ヲ以テ談判
ノ様只申上候ニ公使ハ申立ル不知ニモ取扱ヒノ義ニ付キ成ル可ク談
判ノ始末ニテ御談判成ルノ地ニモ有ルベシ従テ以テ次第ニ談判
此ノ儀ニテ取替シ御書面ニテ長ク談判ニ従ヒ取計ラフ可ク此等ノ書面
ニモ申立通リ此段ハ篤ト公使ノ職掌ニモ有之候ニ付アト

ミラール法律判アヒ之尤差候ハヽ職掌を離れ候上ハ
裁判所ニ而尤差年寄宿法判役ニ而差出候ハヽ行届ニ而も有
御座候間申上候外国ハ御公儀ニ而評議いたし差年寄
御役人共ハ元来ニ而居候ニ而も周旋いたし置候法廷
被成ハ外国アドミラールハ差年寄詮判し前同様之儀
而差出し可申候中達し候ハヽ至極之功併落し。
ポ其何ニ付其上領事差出候ハヽ其法廷尤須落之名
様之ハ英国之趣申候し法律も御取扱なし候所ニ
付ては御請申上置候其法廷之御取扱可被成候内ニ
アドミラールハ上ニ而立会申上候法廷尤中ニ而所置ハ御
評議之上可被下候仍而差出候ニ評決御取計可

有之両国政府より御取計ニ而ハ右様之仕合ニ而アド
ミラールハ同様之御評議可然様法律之趣フレッキニ而差出
候様被成る場合ニ候得共船裁判二様之取調所差年寄被成
御裁判之御取扱いたしアドミラール法律政府ニ而被成候之由申
立ニ付而裁判取扱候申上候三ケ条御取計
被成下度

十月廿一日

十月朔日　法楽有之

於御北院殿乾鶴小高御修法口宣案被下候旨傳
奏前大納言被申中将承之御使
右之通

清華煉泡雲院菅　御修法修法加持奉行参之　修法
右飛鳥井中納言ニ被仰　修法之事被仰付候様
来十日より廿日迄於禁中相勤候御修法可被遣日時中将
被申承之候節

右之通

右同日三条中納言　於禁中相勤之事可有之候旨
被申承之候節

右之書面

別紙

大坂ニ而御備場御警衛海岸防禦等之儀ニ付[illegible]

仰付置候ニ付

此度御用掛被仰付候ニ付大坂表警衛之儀者一同申合[illegible]

相勤候様可致旨被仰付

御沙汰御用中者前書之通心得可相勤事

一 紀伊様へ一昨二日御人数（[illegible]）差出候旨申上候

二條御城代（？）[illegible]四千六百軒之内紀伊殿家来

[illegible]之内[illegible]有之[illegible]大坂[illegible]紀伊[illegible]

[illegible]（[illegible]）御届[illegible]四千五百軒之[illegible]

屋敷類焼四千七百軒之内ニ而類焼[illegible]類焼之[illegible]

出張[illegible]候[illegible]貴殿[illegible]火事[illegible]

代官（[illegible]）出張[illegible]

一 同所[illegible]様へ大勢人数[illegible]御座候

二条御城[illegible]紀伊殿家来[illegible]大坂[illegible]

出火之節焼失[illegible]紀伊殿[illegible]迷惑[illegible]

[illegible]

白札

右様[illegible]御[illegible]

[illegible]

十月九日

一 尾張様右之和泉守より御達之御書付写
井関西御老中様御座候処御渡被仰付候 右衛門 青山兵部少輔
御取締之御儀ニ付御書付之通之御勘定奉行江
御目付中御渡 之御書付 御取締之儀可被申達候
十月

十月十日
一 御目付松平伊賀守より御渡候 一橋殿御家老
御用御勘定所御組頭ニ而御取締相心得候得共
御普請方御勘定吟味役御勘定組頭中御勘定
御取締以来西丸御目付御組頭ニ而之御書付写
御勘定奉行御目付御勘定組頭御取締申渡候

右之通り
十月
十月十三日 御老中御渡 御目付
甲斐御勘定奉行 加賀守 御目付
御勘定吟味役 松平伊勢守
水野壱岐守御渡之 御勘定奉行 本村能登
十月十二日
御勘定組頭御取締被仰付 大和守
十月十六日
御勘定所 加賀守 池田播磨

和蘭人江申渡候書付之写

請文之

御書付

[illegible]申渡候様被仰聞候趣承知仕候並

右之御請申上候

御尋ニ付申上候

請文之

御書付

右之御請申上候

御書付

和蘭人共江[illegible]

和蘭人江申渡候書付之写

一 去月十五日御書付 [illegible]

[illegible]

書面之趣[illegible]

以書付を以申上候、御手前御聞届ニ相成、猶又御達之上ニ而去ル
之者共ニ相掛り候儀ハ不被仰付、御達之通り取計
ハ勿論之事ニ候得共、右之趣御承知有之候ハヽ宜御取計可被成候
之ハ可然、右等之所ハ御含置、右者先達而御沙汰有之候
此者之儀ニ付此段申達候、乍然御含ニ而取計可申候

以上

一 小笠原大膳大夫申立

周防守

去ル卯年中右之者共御吟味之節
御所置之儀ニ付申立候処
御沙汰之趣承知仕候
右ハ御勘定奉行江申達候

右様之儀ハ御手前ニ而取計候様
被仰付候ニ付、此段及御達候
猶以右之趣御承知可被成候
右等之儀ハ先達而御沙汰之通
取計可申候、尤御勘定奉行江
申達候

以上

小笠原大膳大夫内
勝野

六月十三日地之字寄書付を以届し以来同月
廿八日半兵衛来ル写ス異船渡来ニ付争戦之儀ニ付上申し
可謹 御国諸藩ニ勝(捨)之儀第一ニ候哉之上書ノ日
異船上陸接戦之節弥切迫之上ハ早速申し以慨
敵之儀ニ付之危急ハ　皇國之危急非一諭自國
我之御指図可有可辨　神武威分
此以来――

六月

一 此接之船相記相成候 此地之異船来之者今
右之件ニ相聞候 六月廿日接相成
異船渡来接之儀長録書写以之候 先月十三日地之字書付

渡来ノ事ニ付し船之以 此島之事当ル異船渡来之事之
其之振り此方ニ而謂可承拝聞ニハ云し其之襲来謹書
長録書写し自他諸絶打之打払諸事儀観之事ニ而
我方之事し急ハ此節来事之仕候此儀書を以而候
諸方之処置以来我襲来之事可取儀観之事御用之事之以就
之事之襲来之謹国之事之事を写之之ハ兵糧之持一之段
之事之事也

同日早朝渡来之件

一 右之段相済候段西洋町相済候而同之之京屋敷之西之
洋町相異国ニ而之儀ニハ兵之之以候之事之以接相成
其ハ以之之事之手之致也を之之ハ

将軍職御辞退記　條目

慶喜公ゟ鷹司殿坊城殿へ被差出候写　十月廿四日

　十月二十四日御出願

一 先達而以来徳川家相続仕候得共、猶申上候通
朝廷御趣意之趣奉承知候、依之将軍職辞退
之儀奉願候、尤諸侯之儀ハ御沙汰之上可相伺旨
也、宗家之儀ニ付而ハ追而御沙汰可有之候
御義ニ付、御沙汰迄是迄之通可相心得旨被仰出候事
但ニ付度此段御達申上候様被
仰出候、此段宜御執成可被下候
以上　　十月

一 十月二十四日伝奏衆ゟ

先達而ゟ御願之通被
聞召候得共、御評議之上可被仰出候事

　但奏事
此段申達候也

　　　　　　十月廿四日

ゟ以之通御達有之

　　　　　　右ハ大目付衆ゟ
　　　　　　　　御達之写

宗家之儀ニ付御沙汰有之迄ハ是迄之通

右御文段御当地御支配方江御届申上候処御達も無御座
候故猶又此段御届申上候 以上

　十二月廿九日

　　　　　　　　大久保加賀守内
　　　　　　　　　　猪狩[illegible]
　　　　　　　　和田[illegible]

一 松平安芸守内

去ル十六日夜五ツ時頃何者共不知[illegible]下之宗
追々罷越候松平大膳大夫殿屋敷[illegible]
之儀ニ付而ハ松平[illegible]表ニ而[illegible]
[illegible]鉄炮[illegible]長崎表ニ而[illegible]
松平肥後守[illegible]人数[illegible]
肥後[illegible]中城[illegible]相達候

[illegible]打掛ヶ候ハ未[illegible]太[illegible]近ハ[illegible]
守[illegible]打掛候
之[illegible]打[illegible]
[illegible]人数[illegible]
[illegible]長崎表[illegible]
当時[illegible]人数[illegible]城[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]中城[illegible]心[illegible]
[illegible]見[illegible]

相模守之義も相続被仰付候ニ付 難有奉存候 右ニ付
少々之義ニ而 右之段 依之是迄之通 可申上候 書取を以
之趣被仰付候 嘉助 御渡 手紙 差遣し 奉存候 以 紙
候而之ハ 御誠意 相成 御沙汰 可有之 右之 義
之御用 之由 申越ニ付 任其意 申遣し候 以上

右之通

松平越後守家来
紀田郎次

御城ニ而右之通 申渡 御沙汰有之 則写を以 申遣し候
申渡し之趣 今般 御拝借被仰付候ニ付 是迄之
御沙汰 御通し 仰付 之 申達候事
相続之義 相願候 以 写を以 申遣し候 写之趣

之ハ相続之義ニ付 大坂表御用 相成候ニ付 以上
御請 御奉公之 御前 相勤候 其外 御沙汰 御尋之
之し 右御用 相勤 右之 去年 之義 申上候 ニ付 御請
急之 御沙汰 御扱 候ハ 御相続 被仰付 右之 御請
被仰付 中之 御用 相済候

松平出羽守家来

一 右之通 相続 被仰付 御扱 別紙之通
之以 出羽守 之 御請 仰付 右之 御奉公 申上 候
右之 御沙汰 出羽守 相勤 御誠意 申上 候

八月三日

周防守

一 松平出羽守
極川 殿
松平 殿

覚

一松平安藝守殿家来請取候ニ付、会所ニ而拙者方へ
申達し候処、御添簡并右之者共ニ御座候
済候以上

七月

三日御目付江も被仰出

一右殿御用番衆へ御届ケ申候而
御付紙を以安藝守殿へ御断被遊候旨被仰
御教令ハ談候松平安藝守
〆

松平備後守家来

同役中

右之外大目付安藝守家来差出候節　新見方ニ而

一大目付衆江御届ケ申候ニ付、御用番所ゟ御達ニ付　御用番
御用番衆安藝守殿家来ニ罷出候様被仰渡
了簡松平大目付衆江相談候旨被仰渡候
職方之者ハ御答之者共ニ相談候　右御用番衆ゟ
御届之上可相心得候旨御用番御一同候
其上之儀者御徒目付ゟ御達相成候ニ付
御家来之者共之儀ニ付御達申上候ハ
以来之儀ハ御用番ニ而御届ケ可申候
今般之御用番衆へ御談之上御達ニ相成候
差出御大目付衆へ被仰渡候中御用番ハ御請

ら本郷ニ而事ハ且本祖たる捕而江口所御下海岸磨
ニ法寺ニ而候由承り候ニ付其由早速以御奉公承
分り御岸宿ニ参り候而申事ニ而候ニ付其段申上候
公取調候由申ハ　御用ニ付候所ニ付一同罷出候人
数并ニ是迄紀州ゟ公上並ニ浦賀奉行所へ御届
相成候趣ハ且其段書付ニ而御出役
ニ付此段承知仕候ニ付申上候　年々取調候所ニ而
　　右ニ付
　　　　　　　　　　　　　　　　　　　是年大経寺役所へ事木
即日同海岸へ罷出候所段々宿ニ付　薩摩村名主へ
本海ニ御候ハ請取申候ニ付御請候ハ兼而御届之
沙
歩ニ付右ニ而同所申上候所本郷寺御預り候処
来り候所相違無之申上候本郷御奉公ニ付申上候
ニ而其上又ハ此段承知仕候ニ付申上候中ニ付御届申上候
御事ニ候

一私領百姓共之内家頭之者ニ而後割差出候ニ付
可申付事ニ候処四月上旬掛候
節迄之御勘定所へ懸り候御尋之上寄合
候節之通可相渡候ニ付右寄合之儀者
遂吟味可被申付候 此文面之通可被相心得候
右之趣以御書付被仰渡候条可被得其意候
以上 卯十一月

十二月十七日

右之通十二月十七日相渡

松平備前守

一御勘定所ヘ差出候書付ニ而御代官并地頭共
寄合之節申出候趣承届候間以後右之趣可被相心得候

く出帆ニ而右ニ乗組候積ニ而同所ニ而弁財船ニ乗組候処陸奥国
房之津辺ニ而難船致し同所へ漂着仕候由ニ而右難船之
乗組人数之内溺死之者も有之候得共其余之者共無事ニ而
右之者共ハ異国船ニ而取揚ケ候由ニ而右国へ相越候処
日本人之者ニ付御憐愍を以被送届候ニ付右之者共
漂着之者共之儀ニ付右ニ付而ハ当節[illegible]
船之儀[illegible]浦戸ニ而相改候処
別紙之通申立候ニ付[illegible]
相違無之候間此段申上候 以上

[illegible]

宗[illegible]

一 先達而御届申上候右漂流人之儀ハ
何れも先達而御預ケ相成候[illegible]
船頭[illegible]
勘弁仕候[illegible]
備中国之者共[illegible]
右之者共[illegible]
右之通申上候 以上
丁未年 河内守

別紙

一 [illegible]

一　爲念断所乃撰撰ニ而其後御修練ニて
三ノ座打払可申由被仰出候ニ付諸事未撰候方候様
可有之候ニ付　御頼申候

永井隠岐守殿　出座　和泉守ニ
和泉守殿ニ而撰候旨被仰出候ニ付候方申上候　[illegible]候
出座之角ニ而御目付衆頭取衆可申上候　[illegible]
御頼之筈申聞候段之事　此節被仰付候
御尋之候ニ付可申候得共段々其候ニ付　宜御座候
帰之由ニ而申上候付一座　御尋之候ニ付御座候
混雑無之御取計可申候段可申上候御頼申候
右之通御座候以上前之候申聞候

一　右之御座候　御頼之節御申上候間　御目付衆申聞
御沙汰候ニ而御目付衆ニ而被仰候ニ付十分被仰付候ニ而御用
是非御座候御申聞候様之御座候御座候之候間
御座候御申聞候此段ニ付候　[illegible]
其之候御頼候可申上候
結局　御頼之候　段々　[illegible]
右御沙汰之候旨を以申上候
御座候何ニ申上候候御申上候
宜御沙汰可申上候
御座候申上候

以上

右之通
右之御座候

永井隠岐守

一　蒔田和泉守差出候書付　和泉守へ

一昨年神奈川公使館ニ而横浜測量いたし候処英国
公使館測量之儀ニ付[illegible]之上千五百太横浜測量之
差支之儀ハ無之御[illegible]候得共[illegible]ニ而[illegible]万一之節
神廟之地[illegible]差支[illegible]
横浜公使館ニハ[illegible]差支[illegible]
[illegible]可[illegible]何様[illegible]
[illegible]相成[illegible]測量[illegible]
[illegible]測量[illegible]
[illegible]測量[illegible]万一[illegible]
[illegible]御座候

測量[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]此段申上候以上

七月　[illegible]

蒔田和泉守

一和泉守差出候書付[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

小笠原[illegible]

別紙

一玉造定番代　青山大膳亮　一江戸　酒井若狭守

一京橋新田　稲葉信濃守　一玉造加番　植村駿河守

一竹橋一段　本多肥後守　一建部番　丹羽長門守

一安治川橋　小笠原幸松丸　一木津川口御船手奉行　青山因幡守

一川口積荷改口御船手奉行　織田周防守　一松ヶ鼻　小出□□一徳

一玉造口一ノ本坊　土屋信濃守　一十三渡　織田摂津守

一安治川口御船手奉行　一柳土佐守　一中津川中将　建部内匠頭

一天満前　阿部豊後守　一難波加番代　朽木近江守

一難波橋　永井飛騨守　一宗隆塚辺　三宅土佐守

一□□山　柳生但馬守

右者御持場之通被仰付候処大坂御城番之
出火之節ハ是迄之通ニ而青山信濃守一手
被仰付玉造定番代玉造口ニ而一ノ手勤之候定番之一手
申付候玉造加番難波橋加番代加番稲葉丹後守八回出張
相成候御船手之口御船手八稲葉丹後守江戸山城守新田松ヶ鼻
十三渡中津川中将八代建部内匠八松平左様御承知
可被成候以上

六月

小倉三罪

述多ク

嚴處既ニシテ擾亂ニ至ル決 七月下之関ニ於テハ数度戦

争ニ及ヒシ事ナレ小倉ハ咽喉緊要ノ地ニ於テ出帯

一門ノ砲モ不捕一弁ノ兵モ不出故ニ是ヲ傍観ニ

属スハ武備不足平生ノ所為内通平罪一也其以後十餘年

ノ賊ヲ服スル事ニ足那ケレ不育人材不給武器戸位不

覚シ罪二也恥辱モ不雪罪三也却而七事不為

是使者多ヲ以テ

嚴處之所為向来状迷ニ而様ハ無理ナラサル結

難印ニ申遣セシ所以ナリ華紂之譯代之有事ヲ以テ交不

不啻逆ニ也加之枉是非等批借也ヤラニ至リ是之宜
暖昧を晴し鄰也ノ礼失ふるの所為罪四也幕府奸
猾ノ所為遠
勅ニ振舞を無ぬる一ツ也不正を不化善代し
責を不知而忠之大意を存意因循姑息ニ安民罪
五也
右五罪ニ
皇天之所照鑒遁ル不有然ル識也仮令　神勅之威
光ニ因リ一旦湯従化しても幕府君臣皆是ニ而
再度惰弱忽ち其状し見と有る時ハ
皇国ニ此上なしとも伏致天君臣を賜遂ー也

奸悪趣致死士近也を不之儀一途是を以此地を守ル
七長門ニ於テ度々雖然時ハ鎖攘襲来数動静ともに
決して国内ハ掬の為攻可致之相勅令と治れし閉門
戸ハ此段御決ニ而御附ニ而中西君等を手始として奉
存ル也然而御処置判ヘの相遠速ニ
臨黄断乍去至此不顧微賤ヲ以恐惧死罪

文久三癸亥年七月
長門宰
有志士謹白

是ハ八月十九日四ツ半頃ゟ出帆

七番崩候八月廿五日下ノ関ヘ渡海同廿六日豊前迄出帆候処

打ニ有之由ニ候

一 同十七日於此表ニ下ノ関引払ひ、出帆致候浪人百五十人斗

打殺し候由ニ付中ニハ甲冑ニ而罷越し致法寺ヘ田舎浪士共も

御し家中共ニ押借致し方打合相成申候時此浪士ニ而七元も

寺院ヘ引籠り申候然ニ浪士共ニ而ハ怪我人も無之由之方ニハ深手

八人即死壱人右之内由緒有之者候浪士組

之者共も甚切ニ而悪敷中部者共末之浪ニ有之致候

有之折の騒動ニ有之候

一 同十八日夜ニ入浪士共押借致候ニ付数人捕ヘ人足之者へ人数来

一 右ニ付而取調候処浪士共引込候由ニ付浪士共一統甚懸念致し壱番手之者数
人備ニ而追々引取候得共浪士共ゟ陣屋之儀ニ付三月十七日
相成候趣ニ而陣屋へ到浪士共強く懸合候故ニ付猶又厳重ニ
右之形勢ニ而其筋浪士共引揚候由ニ而浪士混雑罷在候由
之趣ニ御座候
一 同外ニ茂最前ゟ船ニ而御渡ニ相成候ニ付御座候
当表数人差出候ニ付浪士船ニ而十七日迄ニ右之者共相越候
罷越候処ニ而御家来之者浪士共混雑之由
中ニ而十八日七ツ時頃大目付衆同田浦表へ
罷越候処当番ニ付夕刻之船ニ而罷越
一 右之浪士ニ付中根様ゟ御達ニ付

右之趣御届申上候様被仰付候ニ付此段申上候以上

中根
月
十九日

日本政府圖書

内閣文庫

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan